

## 銘柄分析レポート：四季報春号で見つけた割安株

### 1 はじめに

自分で銘柄を見つけるには、会社四季報を通読するのが一番です。とはいっても、ただ漠然とページをめくっては意味がありません。「どのような視点で四季報を読み込むか」がポイントでしょう。

銘柄選びの基本は、次の3つです。

- 事業内容が分かりやすい
- 売上・利益・配当が安定して伸びている
- 株価が割安である

株価が割安であるかどうかを判断するには、四季報に書かれている予想PERを用いてもOKですし、自分でEV/EBIT倍率を計算してもかまいません。EV/EBIT倍率が5倍未満なら割安です。

- $EV/EBIT$ 倍率 = (時価総額 + 有利子負債 - 現金同等物) ÷ 営業利益

しかし、このような基本的なやり方だけでは、投資対象になりそうな銘柄が見つげづらい時期もあります。

この3月に発売された会社四季報春号がそうでした。昨年11月からの相場上昇を受けて、出遅れていた銘柄まで買われてしまい、割安株のほとんど残っていない状況です。

そんなときは、ひとひねりする必要に迫られます。一例をあげれば、次のような考え方です。

- 何らかの強みを持っている会社である
- 一時的にEPS（1株当たり利益）が伸び悩んでいるか、落ち込んでいる
- そのEPSに対するPERが低い

この手の銘柄では、一時的に低迷していたEPSの回復によりPERも上昇して、株価が急騰するというダブルプレイが期待できます。

今回の銘柄レポートでは、会社四季報春号より、ひとひねりを加えた形で選んだ割安株を紹介します。